

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

石川県 珠洲市

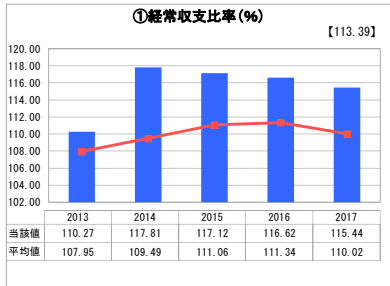
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	65.76	88.46	5,324	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
14,752	247.20	59.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,923	70.92	182.22

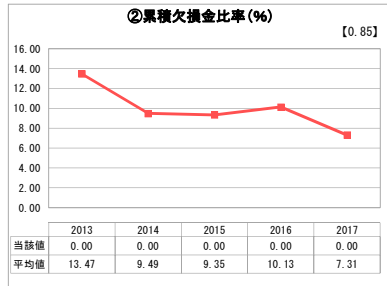
## グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

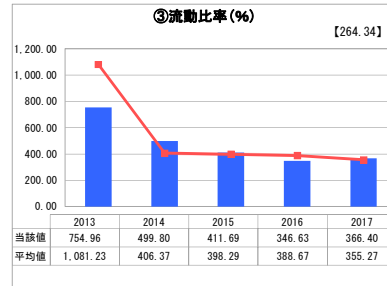
## 1. 経営の健全性・効率性



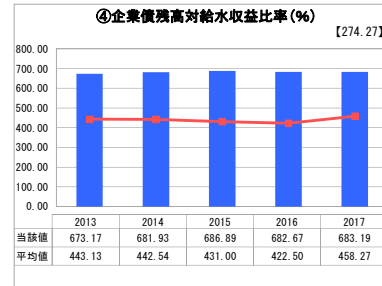
「経常利益」



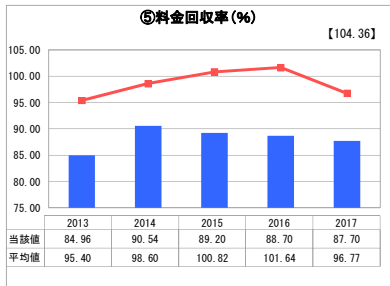
「累積欠損」



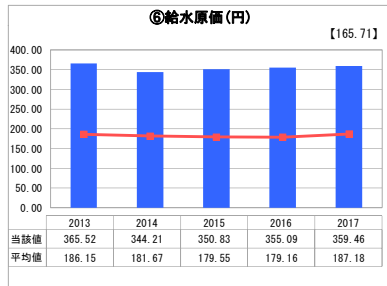
「支払能力」



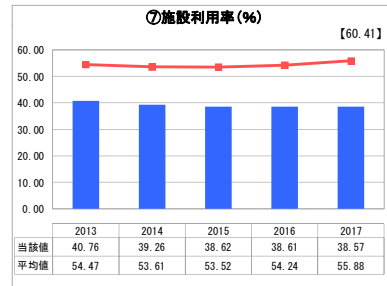
「債務残高」



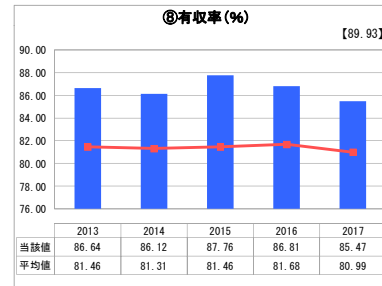
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

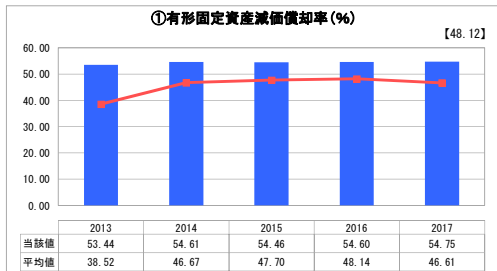


「施設の効率性」

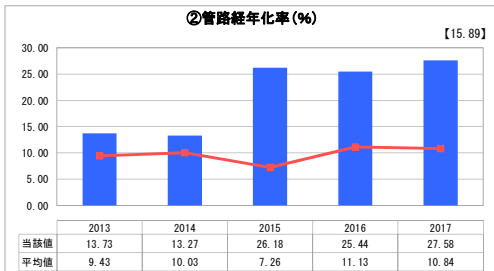


「供給した配水量の効率性」

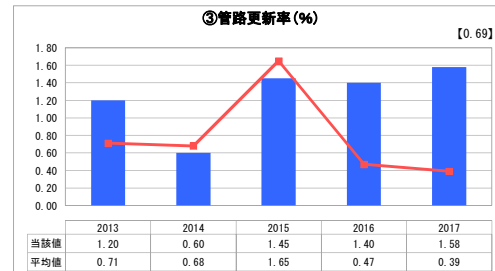
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

給水人口の減少や節水型機器の普及等により、これまでと同様に有収水量は減少している。これに伴い給水収益も減少しており、今後も水需要の伸びは期待できないので、この傾向は続くものと考えられる。

そのような中でも、①経常収支比率、②累積欠損比率及び③流動比率については、類似団体の平均値を上回っており、短期的な経営の健全性は保たれている。

④企業債残高対給水収益比率については、前年度より増加したが、これは統合簡易水道事業に伴う借入額の増大によるものである。今後も給水収益の減少が見込まれる中、起債の残高についても減らしていくことが必要である。

⑤料金回収率については、100%を下回っており、給水収益だけで給水に係る費用を賄っていない状況にあり、不足額を一般会計からの補助金で賄っている状況にある。

⑥給水原価についても、類似団体の平均値の2倍近い費用がかかっており、維持管理費の削減等の経営改善が必要である。

⑦施設利用率については年々減少傾向であり、この傾向はこれからも続くと考えられる。今後も施設のダウンサイジングや統合事業を検討していく予定である。

⑧有収率については、前年度より減少したが、これは冬季の異常寒波による宅内配管の漏水多発に伴う料金減免の影響が大きいと考えられる。一方で、引き続き順次老朽管の更新を進めており、事業を進めながら有収率向上に努めていきたい。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②管路経年率については、類似団体の平均値を上回っており、法定耐用年数に近い資産や経過した管路を多く保有している現状にある。今後は残存している石綿管や老朽管等を順次更新していく予定である。

③管路更新率については、平成28年度に引き続き高い値となっているが、これは統合簡易水道事業等の施工によるもので、今後も事業計画に基づき順次更新していく予定である。

## 全体総括

経営の健全性を示す指標は概ね良好であり、当分の間は安定的な経営が出来るものと考えられる。

しかし、長期的な視点にたつと、給水人口の減少に伴う給水収益の減少傾向は続くものと考えられ、いかにして経営の効率化を図るかが課題である。

また、老朽化の状況を示す指標は、類似団体の平均値を下回っており、老朽化した施設や管路を多く抱えている現状にある。

今後、中長期的な耐老化計画を策定し、その計画に基づいて、施設の改良や管路の更新を順次進めていく予定である。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。